

## 急性心筋梗塞患者の病院到着後 90 分以内の PCI 実施割合

本指標は日本病院会における QI プロジェクトの指標を参考に、DPC 分析ソフト「ヒラソル」を用いて、下記の定義に基づき算出しております。「ヒラソル」にて他施設も同条件で算出することにより、一定程度の施設との比較をすることが可能となります。

### <指標の説明・定義>

急性心筋梗塞の治療には、発症後可能な限り早期に再灌流療法（閉塞した冠動脈の血流を再開させる治療=PCI）を行うことが、生命予後の改善に重要です。

そのため病院到着から PCI までの時間は、急性心筋梗塞と診断されてから、時間が 90 分以内であること、あるいは 90 分以内に再灌流療法が施行された患者の割合が 50%以上という指標が用いられます。

本指標は「経皮的冠動脈形成術 (K546\$)」または「経皮的冠動脈ステント留置術 (K549\$)」施行例のうち、入院日もしくは翌日に施行された割合として、値が高いことで、治療の「プロセス」を評価できます。

■分子： 分母のうち、来院後 90 分以内に手技を受けた患者数

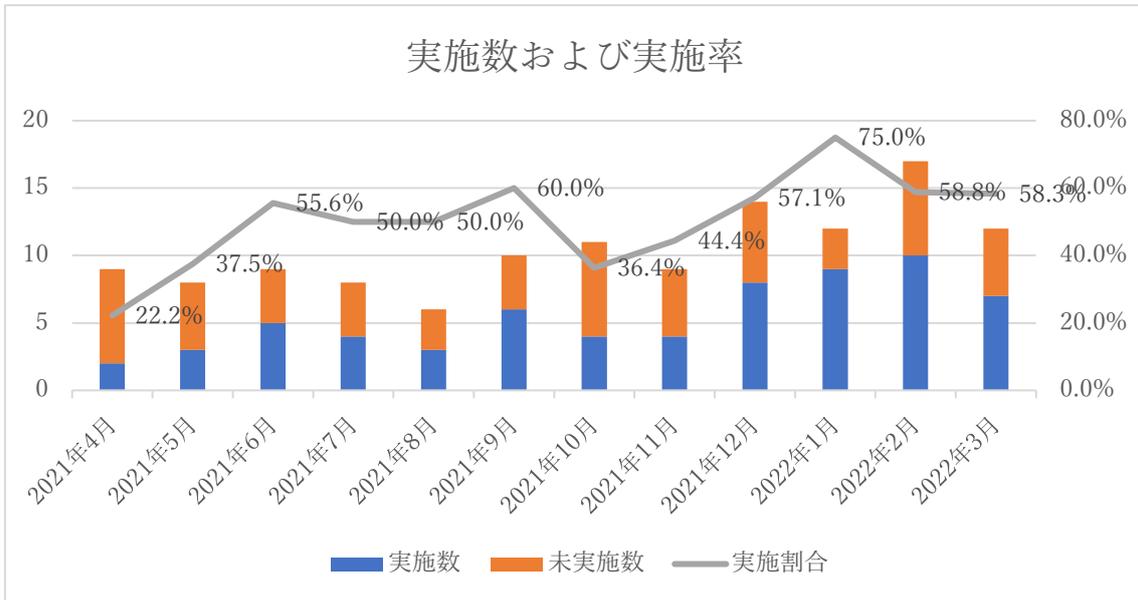
■分母： 18 歳以上の急性心筋梗塞で PCI を受けた患者数

➤ 収集期間： 2021 年 4～6 月分、2021 年 7～9 月分、

2021 年 10～12 月分、2022 年 1～3 月分

➤ 使用データ： DPC 様式 1、F ファイル、EF ファイル

<2021 年度 急性心筋梗塞患者の病院到着後 90 分以内の PCI 実施数および実施率>



<2021 年度 急性心筋梗塞患者の病院到着後 90 分以内の PCI 実施率ベンチマーク

(ヒラソル登録施設) >

